石岡市立東成井小学校
学校だより　１２号
令和５年７月１４日
校長　　石﨑　重臣

太郎・次郎

「太郎・次郎」は，校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】児童が主役　みつけよう　かんがえよう　やってみよう～認める　寄り添う　支える～

読書で心を耕そう！～ブックトークのすすめ

７月10日（月）のHPでも紹介しましたが、夏休みに読む図書の貸し出しが本校で始まりました。一人３～５冊まで借りることができ、子どもたちは夏休みに読む本を考えて選んでいました。

私は、子どもの頃に「読書しなさい」と言われても、読書が苦手でした。しかし、あるときに「ジャンルにとらわれず好きな本を読むのでいいんだよ。読書するだけで、心が耕されるんだから。」と言ってくれた方がいて、少しずつ本を読むことを覚えていきました。

下に示したのは、私が知る、読書で得られる具体的なメリットや効果です。

・知識量が圧倒的に増える

読書で得られる知識には、その結果にいたるまでのプロセスや根拠が示されているため、より生きた情報として立体的に脳にインプットされます。

・判断力が身に付く

読書を重ねることによってものの見方が変わり、自分自身が行動を起こす際にさまざまな場面を想像しながら行動する術が身に付きます。

・想像力が向上する

想像力が豊かな人は、自分に降りかかるであろう危険を事前に予測し、回避できる脳内シミュレーションが自然とできるようになります。

・語彙力が増す

語彙力とは、多くの言葉を知り、使いこなす能力のことです。自分の脳にインプットした言葉を使いこなすためには、読書を重ね、文章を読むことで学ばなければ身に付きません。語彙力が増すことで、話す会話や書く文章の質、他者からの見られ方も変わります。

・コミュニケーション能力が向上する

本の作者の気持ちや、その本の登場人物の感情などが自然と分かるようになり、普段は考えることがないような、他人の考えや、喜び、悲しみ、痛みを理解することで、他者とのコミュニケーション能力が格段に向上します。

先日、40年以上前に国語の教科書で読んだ、印象深い作品に再び出会うことができました。もう一度読むことができる感動と感激のあまり、読後に涙が出てきました。「ウスマンじいさんのひみつ」という話です。私が小学2年生だったときに読んで感じたことに、また新たな感動が積み重なった感じがしました。機会があれば、なるいっこの子どもたちにも紹介したい作品です。

もうすぐ夏休みです。ぜひ、ご家族のみなさんで「ブックトーク」をしてみてはいかがでしょうか。保護者の皆さんや祖父母の皆さんの世代それぞれに「こんな本を読んだよ」というお話をし合うことで、お子さんの読書への興味がさらに湧いてくることでしょう。また「この本のこんなところがおもしろかった」や「この本で自分の人生が変わった」など、その本の「読み方」を授ける貴重な学習の機会にもなることでしょう。

心を耕す読書で、たくさんの実りある収穫ができる夏休みになることを心より願っています。